

基本的な役割



(仮称)古河市新公会堂の目指す方向性と役割

目指す姿

「だれもが気軽に文化芸術を体感し、表現できる空間と、次世代への機会の創出」ができる場所

古河市の文化の「ド・マンナカ」

市民生活に文化芸術で彩りや潤いをもたらす文化芸術活動の「ド・マンナカ」

良質な舞台芸術を鑑賞できるホールとして、また、市民自らが舞台に立つ本格的なホール

賑わいが生まれ、活気があふれる「居場所」

文化芸術に取り組む市民の活動拠点として活気に満ち、また、鑑賞に訪れる観客の熱気あふれる拠点

ホール機能だけではなく多彩な利用に対応した機能を持ち、新しい活動や取り組みを受け入れた「居場所」

新たなコミュニティを育てる「よりどころ」

文化芸術を核としたコミュニティから生まれる人との交流

晴れ舞台も日常利用も、そして災害時も、市民がいつでも集うことができる、心の「よりどころ」となる施設

次世代に向けた文化芸術活動の「育成拠点」

文化芸術活動への理解、そして参加機会の拡大につながる「育成拠点」

さまざまなバックグラウンドを持つ市民が共に文化芸術を体験することで、障がいの有無、国籍・人種・性別などの「ちがい」を超え、認め合い、受け入れる機会づくり

※PPP/PEU等…
公共施設等の建設や運営などを行政と民間が連携して行うこと。

概算事業費(従来の公共事業は179億円程度で、PPP/PEU(民間活力)を導入する事業方式で整備を検討しています。古河市におけるメリット・デメリットや公共負担の縮減額などを総合的に勘案した結果、現段階では事業方式の一つに絞ることが難しいため、引き続き検討を進めます。



海老原係長

概算事業費		(金額は税込み)
項目		備考
設計	約8億円	
建設整備	約143億円(杭工事を含む)	平米単価130万円
外構整備	約8億円(駐車場 約670台)	平米単価3万円
その他	造成：約12億円(地盤改良・用地取得を含む) 調整池：約4億円 備品：約4億円	
合計	約179億円	

※今後の物価変動など社会環境の変化により金額は変わる可能性があります。
※財源：施設整備費は、地方債(充当率75%)の活用を検討します。

? 費用はいくら必要なの?

大堤地区に、新公会堂だけでなく大型商業施設や産業交流施設を併設し、さらなるにぎわいの創出に取り組んでいく事業です。

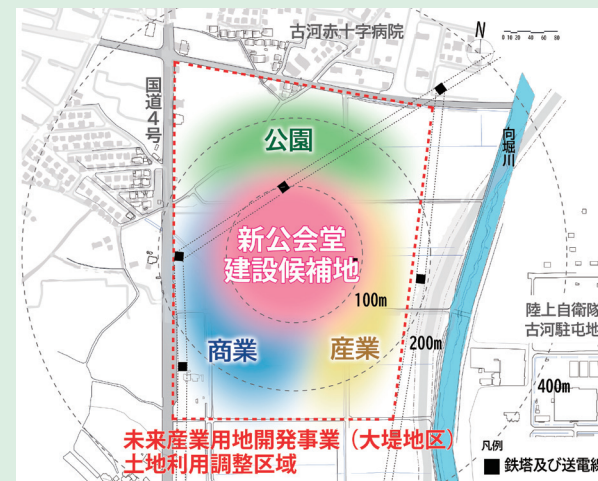


福田主幹



▲富士見市民文化会館キラリ☆ふじみと商業施設(ららぽーと)が連携したイベント

? 未来産業用地開発事業とは?



令和14年度中に運用を開始するスケジュールです。場所は大堤地区内で、未来産業用地開発事業地内の約2.7ヘクタールを想定しています。
今後は、新たなにぎわいの拠点を創出するため、既存インフラの強化に加えて、周辺環境に配慮しながら整備に取り組んでいきます。



塚原主事

令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度	令和9 (2027)年度	令和10 (2028)年度	令和11 (2029)年度	令和12 (2030)年度	令和13 (2031)年度	令和14 (2032)年度	
基本構想・計画	管理運営計画			造成・設計・工事				開館準備	運用開始
	事業者選定準備・募集								

? 開館はいつ頃で場所はどこにできるの?



皆さんの疑問にプロジェクト推進課の職員がお答えします

(仮称)古河市新公会堂 基本構想・基本計画を策定しました



ワークショップやヒアリングで
市民参画の場を設け要望を把握しました

対象

市民アンケート(3,000人)、文化団体アンケート(480団体)
教育関係ヒアリング、市民・中高生ワークショップ等

アンケートでいただいた意見

新公会堂はどんな場所にあるのが良いと思うか

周辺の道路や駐車場に恵まれた立地

58.5%

新公会堂の特色として望むもの

芸術文化を鑑賞する場

45.2%

住んでいる地域で文化的な環境に満足していない理由

近くに文化施設がない

66.3%

新公会堂に併設する施設に求めるもの

レストラン、カフェ

71.6%

古河市は、平成17年9月の1市2町の合併以来、市民の一体感の醸成と発展の基盤づくりに取り組んできました。しかし、文化芸術の振興という点では、新市建設計画で盛り込まれていた文化施設の整備はまだまだ実現には至っておらず、市民の文化芸術を支えるための中核施設の整備が長年の課題となっていました。

問 総プロジェクト推進課
Tel 92・3111

そのため、これまでの検討の経緯を踏まえるとともに、市民の皆さんの意見や要望を取り入れ、求められている役割や機能などを整理し、検討結果を取りまとめた(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画を策定しました。



誰もが気軽に文化芸術を体感し、
表現できるために